

# 附属施設としての中等教育学校と学校臨床センターとの連携・協力

センター研究員（東京大学教育学部附属中等教育学校教諭） 鈴木 一 史

昨年度から引き続き本センターの研究員として週に二日勤務することとなった。本年度より学校臨床総合教育研究センター（以下「臨床センター」）は教育研究創発機構の中の組織として改組された。しかし、教育学部附属中等教育学校（以下「附属学校」）は継続して臨床センターに研究員を置き、さらに、COE基礎学力研究開発センター（以下「COE」）との連携にも研究員はかわる。

附属学校は大学との連携を深め共同研究体制をとるために、附属学校内にCOE連絡委員会をおいた。連絡委員長は村石教諭が務め、そのほかに校長、副校長が名を連ねている。前期課程副校長、後期課程副校長の二名は、COEで全国の学校と連携を図るために選ばれた「学校・自治体連携ボード」のメンバーでもある。これは各学校の校長・副校長・研究部主任等が選ばれている。附属学校はこの連携協力を密にするために、学校内にCOE連絡委員会を作り、COE主催の研究会や講演会等に学校全体として参加するよう、インフォメーションを行った。

附属学校として大学と連携をしていく上で、本年度は主に以下のことがあげられる。

## 1. 附属学校と臨床センターとの合同研究会

附属学校は臨床センターとの合同研究会を毎年開催している。本年度も以下の日程と内容で研究会を行った。その設定を研究員が行う。今年は2004/7/1に附属学校内で行われた。内容は以下のとおりである。

趣旨：教育学部附属中等教育学校と教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センターとの相互交流を図る。

- ① 荻谷先生（学校臨床センター長）「機構組織改組」「附属学校との合同調査について」
- ② 亀口先生・角田先生（ほっとルーム）「ほっとルームの現状」
- ③ 市川先生（がんばルーム・COE）「COEと附属との関連性」「がんばルーム」
- ④ 恒吉先生（臨床センター）「学校支援と比較教育」
- ⑤ 汐見先生（附属学校長）「総括」

## 2. 附属学校にかかわる研究についてのコメント

附属学校は卒業必修単位として「卒業研究」を課している。その卒業研究が教育上どのような意味を持つのかについて、COEでは横断調査を行った。その調査対象が私の担任をした学年（52回生）だったこともあり、生徒の取組状況や生徒自身のキャラクターなどについてコメントすることで、内部事情としての卒業研究への取り組みに対して連携できたのではないかと。

## 3. 附属学校のデータについて

COEでは「生徒の学習と生活について」のアンケートを大規模に行っている。本校でもそれに協力すべく、研究員を通して、本校研究部にアンケートの実施がもたらされ、実施された。その成果は、2004/6/19の講演会にて、教育学部の秋田教授によって本校で発表された。

## 4. 附属学校生に対するアンケート等依頼

卒業研究に関して卒業後にどのように役立っているか等の調査のため、附属学校としてもその成果は是非知りたいと願っていたところであったので、協力体制を取り実施した。

## 5. 研究会等の連絡

4/12「LESSONスタディと授業研究—そのギャップをめぐる文化的背景」などの臨床センターやCOEの研究会・講演会の連絡を附属学校と密に取り、附属学校教員でもできる限り参加した。

## 6. 公開研究会講演

毎年2月に実施する公開研究会にて、荻谷先生に講演を依頼し、「なぜ学習意欲は低下するのか」という演題で講演していただいた。この講演は本校が研究開発校に指定されて五年目の節目の年として重要な講演であった。

以上のような各協力体制を取ることができるのも、研究員として臨床センターに週に二日勤務していたことが大きい。学力問題等様々な問題を学校は抱える中で、学校だけでは見えない部分に客観的研究的視点を持ち込むことで、解決の糸口を探るのではないかと。そのための一方策として、臨床センターのような施設との連携・協力はこれからも重要な役割を担う。